

# 本気でやれば何でもできる

～モスクワでの3年間を振り返って～

加須市立騎西中学校  
校長 加藤 茂高

## 1. はじめに

平成21年3月14日から、3ケ年に渡りモスクワ日本人学校に勤務させていただきました。派遣期間中、在ロシア日本国大使館をはじめ、ジャパンプラブ、学校運営委員会、保護者会等の全面的な支援に支えられ、かけがえのない充実した3年間を送ることができました。しかし、派遣当初は学校を取り巻く環境の変化とともに、さまざまな課題があり、教職員一丸となって取り組まなければならないことも数多くありました。以下に、3年間の取組の一端を紹介します。

## 2. 学校の概要と教育課題

モスクワ日本人学校は、昭和42年に欧州ではじめての日本人学校として開校し、今年で45年目を迎えています。在籍児童生徒数は、小学部、中学部あわせて123名(平成24年4月7日現在)です。学校は、モスクワの中心部から、少し南に位置し、周りの環境にも恵まれた所にあります。

学校目標は、「知・徳・体の調和がとれた国際性豊かな児童生徒の育成」です。

また、「本気でやれば何でもできる」を学校生活のモットーにしながら、

- |                      |
|----------------------|
| ① あいさつがよくできる         |
| モス日3つのほこり ② 学校がきれいだ  |
| ③ けじめある生活ができる(時間と服装) |

を、学校の自慢できるようにしようと、教職員一丸となって取り組んできました。赴任当初、前任校長との引き継ぎを通して、現状を鑑みた結果、私が本校の課題としてあげたことは、

- |            |
|------------|
| ① 教職員の意識改革 |
| ② 勤務時間の適正化 |
| ③ 学校行事の精選  |

の3点でした。

### 3. 課題解決に向けて

1 番目の課題、「教職員の意識改革」は、わたしが最も重要と考えたものです。多くの派遣教員は、赴任当初は新鮮な気持ちで事象をとらえ、不合理なことは改善しようとする意欲を持ちます。しかし、時間の経過とともに、その気持ちが薄れ、与えられたことをやればいいんだという傾向になりがちです。その結果、前年度を踏襲し、マニュアル通りに仕事を進めることで毎日を過ごすようになるのです。この状態を払拭し、教員一人一人の意識改革を図るために、① 朝の打合せで、日常の仕事に対する改善の視点について話を、② 個別指導を通して、教員一人一人の意識の変容を図る、③ 職員会議や校内研修の場を生かして改善に向けた心構えができるよう働きかけるようにしてきました。

2 番目の課題、「勤務時間の適正化」については、① 各種会議の効率化を図る、② 校務分掌の見直しをして、仕事の効率化をと負担軽減に努める、③ 教材についての情報交換や研究の成果の共有化により、教材研究の時間短縮を図る、という方策で、恒常的な超過勤務を軽減するよう努めました。

3 番目の課題、「学校行事の精選」については、① 学校運営委員会や保護者会に行事精選に対する学校の方針を説明して理解を求め、② 学校行事に関するアンケートを実施して、保護者の意向を参考に精選に努めました。

3つの課題に対して、前述した方策を基にねばり強く取り組んだ結果、徐々にではありますが、学校運営委員会や保護者会の理解が得られ、全面的な支援をいただけるようになってきたと感じています。

また、教職員についても、一人一人が、少しずつ理解を示すようになり、全てのことを見直し改善することが、自分たちの仕事の効率化を図り軽減させることにつながることを理解し始めるようになったと受け止めています。

### 4. 特色ある教育活動

特色ある教育活動として、① 現地校との交流 ② 同居校（本校と同じ建物内にあるイタリア人学校、スウェーデン人学校、フィンランド人学校）との交流があります。

現地校と小学部は、風車や紙飛行機づくり・めんこ・習字・茶道・折り紙など、中学部は、英語や日本語の授業を通しての交流を行っています。同居校の三校とは、文化交流とスポーツ交流の二つの内容で実施しています。文化交流では、スウェーデン校のロシア祭（冬の大切なお祭り）に参加したり、英語の授業の参観・参加を行っています。スポーツ交流では、陸上のリレー交流試合や四ヶ国対抗サッカーワールドカップ大会を行っています。

### 5. これからの日本人学校

日本人学校は、「国内の小・中学校と同等の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設」と定義されているものの、実際には、現地の仕組みや制度に従いながら、その地ならではの特色ある教育を行わなければならない現状があります。私は、定義された教育内容と容と現実との調和は極めて難しいと感じています。

折しも小中学校とも新学習指導要領に基づく教育のスタートを迎えて、日本人学校をどういう学校にするのか。学校運営委員会や保護者会とも密なる連携を図りながら、将来を見据えて中・長期的に考えていかなければならない時期にきていると考えています。